

検 印

第5学年2組 体育科学習指導案

令和4年9月28日(水) 第5校時 体育館
 男子 18名 女子 17名 計 35名
 三郷市立彦成小学校 教諭

1 単元名 「主体的に学び、みんなでつくり上げよう鉄棒演技」 (鉄棒運動)

2 運動の特性

(1) 一般的特性

- 基本的な上がり技や支持回転技、下り技を身に付けたり、新しい技に挑戦したりするときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。
- できるようになった技を連続したり、組み合わせたりして楽しむことのできる運動である。
- より困難な状況の下でできるようになったり、より雄大で美しい動きができるようになったりする楽しさや喜びのある運動である。

(2) 児童から見た特性

楽しさや喜びを感じる要因	鉄棒運動を遠ざける要因
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい技ができるようになったとき ・仲間との学び合いや、励まし合いによって、高め合うことの喜びを感じたとき 	<ul style="list-style-type: none"> ・技ができるようにならないとき ・手のひらや膝裏に痛みを感じたり、落下する恐怖を感じたりするとき

3 児童の実態

4 教師の指導観

研究主題	運動の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わうとともに、資質・能力をバランスよく身に付ける授業の工夫
副題	～「学び合う学習形態」を軸として、「わかる」「巡らす」「できる」「もっとやりたい」が連鎖する鉄棒授業の実践～

器械運動は、その特性上、「できる」「できない」がはっきりと見た目に表れる運動である。そのため、「できる」児童はますます意欲が高まり、「できない」児童は低下しやすい。特に鉄棒運動では、高さがあるために恐怖心を抱きやすく、棒を用いて行うが故に感じる痛みもある。

鉄棒運動の魅力は、棒を中心に回転したり、高さのあるところから身を投げ出して着地したりするなどの運動によって、日常では味わえない心地よさや爽快感を感じることができるところにある。また、技と技を多様な方法で組み合わせることができたり、工夫次第で技自体を様々な形に発展させていくことができたりすることも、鉄棒運動の大きな魅力である。しかし、そのような魅力を味わう前の段階で諦めてしまっている児童が本学級においても少なからずいる。そのような児童には、支持感覚、回転感覚、逆さ感覚などの鉄棒運動を行うにあたっての重要な感覚が十分に備わっておらず、結果的に他の児童と技能に大きな差が開いてしまっている。また、技能が低いことは、意欲の低下にも直結し、その児童にとって、鉄棒運動の時間が苦痛の時間となってしまっているのが現状である。

私は、生涯にわたって運動に親しむ態度を児童に身に付けさせたいと考えている。そこで本研究では、鉄棒運動を行うための素地としての諸感覚を保障できる学習過程を組み、ざっくばらんに議論や試行錯誤をする中で思考を巡らせたり、補助をして助け合ったりすることなどを中心とした学び合いにより、「できる」子も「できない」子も共に高め合っている授業の工夫を行い、児童が資質・能力をバランスよく身に付けることのできる授業を構築したい。

鉄棒は、学校はもちろん公園等にも設置されている身近な遊具である。放課後に自然と鉄棒を通して友達と豊かな関わりを持ったり、児童が将来、家庭を持ったときには、自分の子供と鉄棒を通して豊かに触れ合えたりするような、鉄棒に親しみをを持った人に成長していくための一助にしたい。

(1) 知識及び技能

本学級の児童の実態から、ひざ掛け系の技を組み合わせることを基本として演技に取り組みさせる。技と技を組み合わせる際には、技を安定して行うことができるとともに、1つ1つの技の終末局面を、次の技を意識したものにしなければならない。それを全ての児童に身に付けさせるために、単元の前半では共通のひざ掛け系の演技に取り組みさせる。全ての児童が共通の演技に取り組みすることで、身に付けるべき知識及び技能を明確化し、確実な習得を目指す。

しかし、本学級には、技能の低い児童も存在する。そこで、鉄棒運動における基礎的な感覚を身に付けられる多様な運動を感覚づくりの運動に取り入れたり、グループの友達にとって必要な補助の知識や技術を学ばせて支援の体制を整えたりして、低位の児童も演技に必要な知識及び技能を身に付け、「わかる」「できる」が実感できるようにする。

(2) 思考力、判断力、表現力等

本単元では、ICTの活用も含めた個人学びや友達との学び合いにより、自分の課題を見つけてそれを解決するための場や練習方法を選ぶことのできる児童を育てたい。そのために、まずは技と技を組み合わせる上で必要な知識と技能を確実に身に付けさせ、それらを活用して考えを「巡らす」学習の流れになるように、学習過程を作成していく。

また、児童の思考を可視化するために、ホワイトボードを教具として活用していく。これにより、児童が思考を整理したり、表現したりする力を高めるとともに、教師が児童の思考や判断を称賛したり修正したりすることにも活用していく。

また、ICTを思考力・判断力・表現力等の育成のためのサポートツールとして活用する。1人1台所有のタブレットにお手本動画を保存しておくことで、自分に合ったお手本動画をいつでも確認できる状態にする。これにより、個人学びでの課題発見や友達との学び合いで生かすことができるようにする。また、後追い再生機能付きのタブレットをトレーニングゾーンと称した個人学びの場に設置することで、現在の自分の課題に気付きやすくなるようにする。

(3) 学びに向かう力・人間性等

本単元においての組み合わせ技の学習は、単に1つ1つの技を行っていただくだけではなく、技の終わりが次の技の始まりになるように行っていく。この学習は、マット運動で学習した内容と類似しているが、鉄棒運動は、その特性上、身体の制御が難しい面がある。そうした分からない、できないことにぶつかったとき、粘り強く努力を続けられるような児童に育てたい。また、どのように努力していけばよいのかを自分で考えて決定していけるような児童を育てたいと考えている。そのためには、成功体験をたくさん積み、自己有能感を高めることや、それを支えてくれる友達との人間関係、そしてそれを実現するための授業の工夫が必要

である。

成功体験を積み、自己有能感を高めていくために、鉄棒運動の基礎的な感覚を身に付けられる感覚づくりの運動を構成する。低位の児童でも行える運動を取り入れ、適切に行えている時には積極的に称賛していく。この活動を繰り返していくことで高まってきた運動感覚がその後の運動でも生かしていた時にはさらに称賛し、児童の「もっとやりたい」をサポートしていく。

児童の学びに向かう力、人間性等を育成するために、主体的な学びをサポートする学習形態の工夫を行っていく。グループは同程度の技能を持ったもの同士とし、同じ視点を持って互いを高め合っていくことのできるようにする。そして、隣り合ったグループは技能に差がある配置にすることで、異なった視点での学び合いも移動を最小限にして行えるようにする。また、個人学びの場、学び合いの場の2つの場を用意し、常に自分で選択できるようにすることで、個人学びと学び合いの双方のよさを生かしながら学習に取り組むことができるようにする。これらの学習形態の工夫により、児童の主体的な学びをサポートし、学びに向かう力、人間性等を育成していく。

(4) 研究の仮説及び手立て

鉄棒の演技を行うために必要な知識・技能を身に付け、それらを主体的な学びや、その中で育まれる豊かな学び合いの中で活かしていくことのできる学習過程と学習形態の工夫をすれば、鉄棒運動の特性や魅力を味わうことができ、資質・能力をバランスよく育むことができるであろう。

【手立て1】学習過程の工夫

選べる感覚づくりの運動

1	2	3	4	5	6
共通		共通+選択式			
①反りくぐり ②とびあがり、振り下り ③両ひざかけ振動（下り） ④ひざ掛け振り上がり一片足つばめ一転 向前下り		共通		選択	
		①そりくぐり ②とびあがり、振り下り ③両ひざかけ振動（下り）		【基本】 ひざ掛け振り上がり一片足つばめ一転向前下り 【発展】 逆上がり一つばめ一布団干し 一つばめ一前回り下り	

基礎感覚を身に付けられる運動や、本単元で目指しているひざ掛け系の技を組み合わせた演技に必要な感覚を身に付けられる運動を共通の運動として行わせることで、全員に基礎感覚を養う機会を保障するとともに、全員が本単元のめあてを達成できるようにする。

第3時からは、発展の課題としてひざ掛け系に加えて腕支持系の組み合わせを選択できるようにし、自分のやりたい技や演技につながる感覚づくりの運動を選べる要素を取り入れることで、児童が主体的に学べるようにする。

- ・膝掛け系の技や演技をやりたい→ひざ掛け振り上がり、片足つばめ、転向前下り
- ・腕支持系の技や演技をやりたい→逆上がり、布団干し、つばめ、前回り下り

単元の前後半で変化するパワーアップタイム

1	2	3	4	5
パワーアップタイム		パワーアップタイム∞		
<ul style="list-style-type: none"> ・回転技に絞る ・もう少しでできそうな技や質を高めたい技の練習に取り組む 		<ul style="list-style-type: none"> ・回転技に加えて上がり技、下り技も選択技に加える ・選択技が広がることで、自分の課題に合ったものを選べるようになる 		

単元の前半では、前年までの既習事項である後方膝掛け回転や前方ひざ掛け回転、1学期に学習した後方支持回転の習熟を深めるため、回転技に絞って練習に取り組む時間として設定した。スモールステップを示した掲示物を活用して、段階的に練習に取り組めるようにしている。また、発展技のカードを用意し、技能上位の児童も意欲的に練習に取り組めるようにする。

単元の後半では、オリジナル演技を作成して練習に取り組んでいく内容になっていくために、上がり技や下り技も選択技に加え、選択の幅を広げる。これにより、自分の課題を意識する機会を作り出し、児童の主体的な学びを生み出せるようにする。

○もう少しでできそうな技

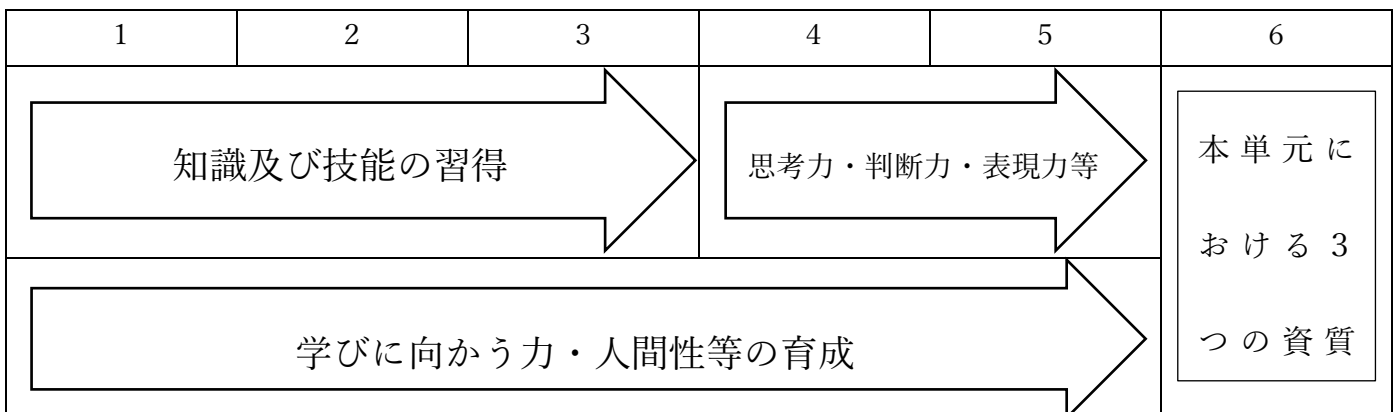
- ・学び合いゾーンで、補助してもらったり、アドバイスしてもらったりする。
- ・トレーニングゾーンで、ひたすら練習を繰り返す。

→スモールステップを示す掲示物、タブレット後追い再生の利用

○質を高めたい技

- ・学び合いゾーンで、友達に見てもらったり、アドバイスをしてもらったりしながら、質の向上を図る。
- ・トレーニングゾーンで、ひたすら練習を繰り返す。

3つの資質・能力をバランスよく育む単元の学習の流れ



○知識及び技能の習得

第1時～第3時を、技をスムーズに組み合わせるためには、①技を安定して行えること②前の技の動きを利用して次の技を行えることの2つが必要であることを知識として理解し、その技能を身につけるための時間とした。基本の演技として、「ひざ掛け振り上がり一片足つばめ一転向前下り」を設定し、全ての児童が共通の演技に取り組むことで、身に付けるべき知識及び技能を確実に身に付けられるようにする。

○思考力・判断力・表現力等の育成

第4時・第5時を、前時まで身に付けた知識及び技能を活用して自分が考案したオリジナル演技をスムーズな演技にするための時間とした。スムーズな演技にするためには、自分にどのような課題があるのか、また、それを解決するためにはどのような場や練習方法が適しているのかを考えながら練習に取り組んでいく。その際には、個人学びだけでなく、友達との学び合いにより、多様な視点で深く思考できるようにする。

○学びに向かう力、人間性等の育成

単元を通して、学びに向かう力、人間性等を育成していくために、主体的な学びを学習の大きなテーマとして取り上げた。学習に見通しを持って粘り強く取り組み、自分の学習を振り返って次につなげられるよう、毎時間の振り返りで使用する学習カードには「主体的な学びを振り返って」の項目を設けた。

- ①自分の課題を設定して粘り強く練習に取り組めたか
- ②次の時間はどのような学習にしていきたいか

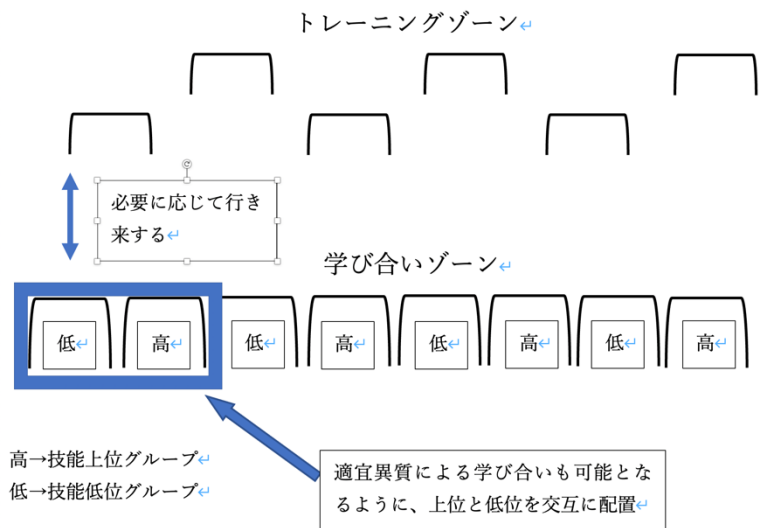
の2点について振り返りを行い、教師が適切に見届け、指導していくことで、児童が主体的な学びを実現できるようにしていく。

また、第3時から、自分のオリジナル演技を作成していく活動を取り入れることで、学んだことを生かして新たな課題に挑戦する機会を設けられるようにする。それにより、児童の意欲を高めながら、自分の方向性を自分で決め、粘り強く努力する力を児童に身に付けていきたい。

【手立て2】学習形態の工夫

○最適な学び方を選択できる学習形態

- ・ある程度技能が同程度のもの同士で4・5人のグループを組み、それらのグループを、隣合う鉄棒同士では技能に差が出るように配置する。
- ・同じ鉄棒には、同程度の技能を持った友達があり、視点を共有しながら学び合いを進められるようになっている。
- ・隣の鉄棒には、技能に差のある友達があり、得意な児童が苦手な児童にアドバイスをすることで自身の知識及び技能を深めたり、苦手な児童が得意な児童の演技から自身の課題解決のためのヒントを得たりするなど、豊かな学び合いができるようになっている。
- ・友達との学び合い、個人での練習の場を分けることで、児童が主体的に自分の学びの形を選択することができる。これにより、それぞれの場の良さを最大限に発揮することができるようにする。



5 単元の目標

(1) 鉄棒運動の行い方を理解するとともに、自己の能力に適した支持系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりすることや、選んだ技を自己やグループで繰り返したり組み合わせたりすることができる。

【知識及び技能】

(2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

(3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①技と技の組み合わせ方について言ったり書いたりしている。 ②技の終わりが技のはじめになる動きができる。	①友達と意見を伝え合ったり、ICT機器を活用したりして、自己の課題を見つけている。 ②課題の解決に向けて、自分に合った場や練習方法を選んでいる。	①友達と協力して準備や片付けをし、約束や決まりを守って運動している。 ②友達と動きを見合い、互いの考えを認め合いながら意見を交流している。 ③学習に粘り強く取り組み、自己の学習を振り返って次に繋げようとしている。

7 単元の計画

(1) 領域（器械・器具を使った運動遊び・器械運動の取り上げ方）

学年	鉄棒運動系	マット運動系	跳び箱運動系
第1学年	鉄棒を使った運動遊び 4時間	マット遊び 7時間	跳び箱遊び 8時間
第2学年	鉄棒を使った運動遊び 4時間	マット遊び 7時間	跳び箱遊び 8時間
第3学年	鉄棒運動 8時間	マット運動 8時間	跳び箱運動 8時間
第4学年	鉄棒運動 8時間	マット運動 8時間	跳び箱運動 8時間
第5学年	鉄棒運動 7時間	マット運動 8時間	跳び箱運動 8時間
第6学年	鉄棒運動 7時間	マット運動 8時間	跳び箱運動 8時間

(2) 領域の内容（鉄棒を使った運動遊び・鉄棒運動）と目指す動き

学年	内容	目指す動き
1	鉄棒を使った運動遊び	○鉄棒を使って、手や腹、膝で支持したり、ぶら下がったり、揺れたり、跳び上がったり、跳び下りたり、易しい回転をしたりするなどして遊ぶこと。
2	鉄棒を使った運動遊び	○鉄棒を使って、手や腹、膝で支持したり、ぶら下がったり、揺れたり、跳び上がったり、跳び下りたり、易しい回転をしたりするなどして遊ぶこと。
3	膝掛け振り上がり 後方片膝掛け回転	○片膝を鉄棒に掛け、腕を曲げて体を引きつけながら、掛けていない足を前後に大きく振動させ、振動に合わせて前方へ回転し手首を返ししながら上がること。 ○前後開脚の支持の姿勢から後方へ上体と後ろ足を大きく振り出し、片膝を掛けて回転し、手首を返ししながら前後開脚の支持の姿勢に戻ることに。
4	前方片膝掛け回転 転向前下り	○逆手で鉄棒を持ち、前後開脚の姿勢から前方へ上体を大きく振り出して、膝を掛けて回転し、手首を返ししながら前後開脚の姿勢に戻ることに。 ○前後開脚の支持の姿勢から前に出した足と同じ側の手を逆手に持ちかえ、反対側の手を放しながら後ろの足を前に出し、逆手に持ちかえた手は握ったままで横向きに着地すること。
5	後方支持回転 組み合わせ技	○支持の姿勢から腰と膝を曲げたまま体を後方に勢いよく倒し、腹を鉄棒に掛けたまま回転し、手首を返して支持の姿勢に戻ることに。 ○自己の能力に適したひざ掛け系の技を選んで組み合わせること。
6	前方支持回転 組み合わせ技	○支持の姿勢から腰と膝を曲げ、体を前方に勢いよく倒して腹を掛けて回転し、その勢いを利用して手首を返ししながら支持の姿勢に戻ることに。 ○自己の能力に適した腕支持系の技を選んで組み合わせること。

(3) 指導と評価の計画 (全6時間)

時	1	2	3	④	5	6
ね	「上がる一回る」をスムーズにつ	「上がる一回る」をスムーズに	自分のできる技を組み合わせて、オリジ	演技をよりよくするための自分の課題	自分の課題に合った場や練習方法を選ん	5-2 鉄棒演技発表会をしよう。
ら	なげるポイントを見つけよう。	つなげ、きていの演技をできるようにしよ	ナル演技をつくろう。	を見つけ、解決方法を考えよう。	で練習しよう。	
い	○学習の行い方 ○準備、片付けの仕方 ○試しの運動 ○上がり技と回転技をスムーズにつなげ	○回転技と下り技をスムーズにつなげ	○演技の構成の仕方 ・安定してできる技を組み合わせるこ	○課題の見つけ方 ・技の構成 ・つなぎの部分の動き	○場や練習方法の運び方 ・それぞれの場や練習方法の特徴 ・自分の学習の段階に合った場や練習方法	○5-2 鉄棒演技発表会の行い方 ○友達の演技の見方
指	○上がり技と回転技をスムーズにつなげ	○前の技の動きの利用 ○上がり技一回転技一下り技の一連の演	こと 【基本】 ひざ掛け系の技の組み合わせ 【発展】 腕支持系の技の組み合わせ	○学び合いの仕方 ・お手本動画の活用 ・見る視点		
導	・技の安定 (つばめの姿勢に戻れる)	技 ・ひざ掛け振り上がり一後方片ひざかけ				
の	・前の技の動きの利用	回転一転向前下り				
内	○ポイントの見つけ方					
容	○学び合いの仕方					
1.集合、整列、挨拶をする 2.準備運動をする。						
2 単元のねらいを確認し、場の準備をする。						
3 感覚つくりの運動をする。 共通：①反りくぐり ②とび上がり、振り下り ③両膝掛け振動(下り)						
④反りくぐり ⑤足かけ振り上がり一足つばめ一転向前下り						
⑥両膝掛け振動(下り) ⑦足かけ振り上がり一足つばめ一転向前下り						
4 パワーアップタイム ・今できる回転技の質を高める練習をする ・もう少しでできそうな回転技の練習をする						
5 本時のねらいを確認する。						
6 「上がる一回る」をスムーズにつなげるためのポイントを考えながら練習に取り組む。						
【ポイント】 ○技の安定 ○前の技の動きの利用						
6 自分のできる技を使った演技の構成を考えながら練習に取り組む。 ○上がる一回る一下りる技の構成 ○姿勢の違いによる組み合わせ方						
6 スムーズにつながる演技にするための自己課題を把握する。 ○友達と演技を見合い、学んできたポイントをもちに良い点や改善点を伝え合う。 ○学んできたことをもとに、自己の課題を把握し、解決方法を考えながら練習をする。						
6 自己の課題に合った場や練習方法を考えながら、練習に取り組む。 ○前時で把握した自分の課題を解決するための練習方法や場を選んで練習に取り組む。 ○1つ課題を解決できれば、また新たな課題を見つけ、解決していく。						
6 5-2 鉄棒演技発表会をする。 【友達の演技の見方】 ○演技が終わったら、拍手をして称賛する。 ○スムーズにできているかの点について、良かったところを認め合う。						
7 場の片付けをする。 8 学習のまとめと振り返りをする。 9 整理運動をする。 10 あいさつをする。						
知・技	①	②	①			②
思・判・表				①		
態度	①		②		③	
方法	観察	観察・学習カード	観察・学習カード	観察・学習カード	観察・学習カード	観察・学習カード
場面	1・6・7・8	6	6	3・4・6	3・4・6	6

8 本時の学習と指導（4／6時）

(1) 本時の目標

演技をよりよくするための自分の課題を見つけ、解決方法を考えている。

【思考力・判断力・表現力等】

(2) 準備

- ・固定鉄棒 ・移動鉄棒 ・マット ・タブレット ・大型テレビ ・学習カード ・タオル
- ・柔らかいマット ・ホワイトボード ・マーカー

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導場の留意点（○指導 ◆評価規準）
導入 5分	<p>1 集合、整列、健康観察、挨拶をする。</p> <p>2 準備運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屈伸 ・深く伸脚 ・前後屈 ・手首足首の回旋 ・首の回旋 <p>3 場の準備をする。</p>	<p>○素早く集合し、身だしなみを整え、元気のよいあいさつで授業を始める。</p> <p>○表情や動きから健康状態を把握する。</p> <p>○一つひとつの動きを正確に行い、各部位の動きが高まるように声かけをする。</p> <p>○必要な動きを厳選する。</p> <p>○安全に留意し、素早く行わせる。</p>
展開 10分	<p>4 感覚づくりの運動をする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>感覚づくりの運動</p> <p>共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ①そりくぐり ②とび上がり、振り下り ③両膝掛け振動（下り） <p>選択</p> <p>【基本】 ひざ掛け振り上がり一片足つばめー 転向前下り</p> <p>【発展】 逆上がり一つばめー布団干し一つば めー前回り下り</p> </div>	<p>○鉄棒運動を行う上で大切な感覚が身に付くように、正しいやり方で行わせる。</p> <p>○自分のやりたい演技に必要な運動を選択させることで、主体的に学習に取り組む態度を育成できるようにする。</p> <p>○ペアまたは3人組でアドバイスをし合いながら行わせることで、相互に高め合うことのできる環境を整える。</p> <p>○腕支持感覚、逆さ感覚、振る感覚、回る感覚、バランス感覚など、鉄棒運動を行う際に必要な基礎感覚を全員が身に付けられるように運動を構成するようにする。</p> <p>○技を組み合わせる際に必要となる体の動きを制御する力を身に付けられるように、つばめの姿勢を大切にしながら行わせるようにする。</p>

5 パワーアップタイム∞

○もう少しでできそうな技に取り組む

腕支持系

膝掛け系

後方支持回転

後方片膝掛け回転

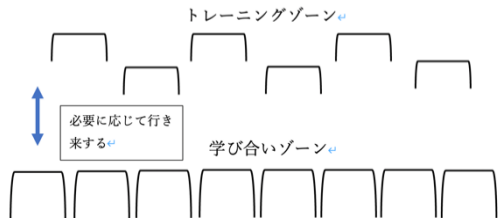
前方支持回転

前方片膝掛け回転

○技の質を高める

- ・膝を伸ばす
- ・姿勢を制御する
- ・発展技に挑戦する

○新たな上がり技や下り技に取り組む



6 本時のねらいを確認する。

演技をよりよくするための課題を見つけ、解決方法を考えよう。

7 課題にはどのようなものがあるかを考える。

○トレーニングゾーン、学び合いゾーンの2つの場から、今の自分に合った場を選択させて取り組ませる。

・トレーニングゾーン

1人で黙々と練習に取り組む場

・学び合いゾーン

友達と見合い、アドバイスし合いながら練習に取り組む場

○トレーニングゾーンでは、1人でも自分の姿が確認できるように、後追い再生の機能を利用できるタブレットを場に用意しておく。

○学び合いをする上で必要な技ごとのアドバイスの視点が分かる掲示物を用意しておくことで、学び合いの手助けになるようにする。

○児童に場の選び方を指導しておくとともに、活動中に教師が適宜指導し、修正していくことで、場の選択が適切に行われるようにする。

○事前に撮っておいたお手本動画を大型テレビで映し出しながら、教師が実演し、演技にどのような課題があるのかを話し合う。

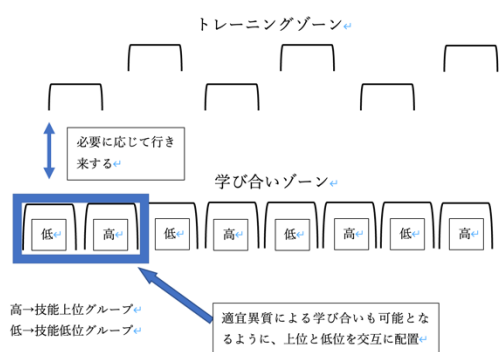
○お手本動画との比較を行うことで、適切に教具を使えるようにする。

○課題の例とその解決方法を一覧にした掲示物を紹介し、この後の活動で生かせるようにする。

○課題の例

- ・逆上がり→後方支持回転でむだな動きがある
- ・転向前下りをする前に、体がふらふらしている
- ・技の質をまだ高めたい
- ・発展技を取り入れたい

8 自分の課題を見つけ、解決方法を考える。



- 適切な場を選んで練習に取り組ませる。
- 児童に場の選び方を指導しておくとともに、活動中に教師が適宜指導し、修正していくことで、場の選択が適切に行われるようにする。
- ・児童への場の選び方の指導
 - ①学習の段階ごとに、どのような学習が必要なのか。
 - ②現在の自分の学習の段階がどこにあるのか。
 - ③それぞれの場にはどのような特徴があり、学習にどのように生かせるのか
 - ④効果的に学習するためにはどの場を使うのが有効なのか
- ・活動中の教師の指導

各グループにホワイトボードを準備しておき、一人一人の現在の学習の段階が目で見分けるようにマグネットで示しておく。教師はそれを確認しながら各場を見回る。

適切に選べていないと判断される児童がいた場合には、その場で指導し、適切な場に移動するよう声かけをする。
- 教師は、見回りながら児童の進捗状況を確認し、自分の課題を適切に発見できている児童を紹介することで、全体に広める。
- 学習を思うように進められていない児童には、適宜声かけを行い、自分の課題に気付くようにしたり、グループを巻き込んで補助発問を行うことで学び合いを活性化させたりすることで、学びをサポートできるようにする。

演技をよりよくするための自分の課題を見つけ、解決方法を考えている。 【思考・判断・表現】

- △努力を要すると判断される状況 (C) の児童への指導の手立て
 - ・児童の演技を動画で撮り、一緒に確認することで課題を引き出していく。
 - ・グループのメンバーと一緒に演技を確認し、該当児童の課題について一緒に考えることで引き出していく。
 - ・掲示物を一緒に見ながら、課題の解決方法を引き出していく
- ◎十分に満足できると判断される状況
 - ・自分の課題を把握し、それを表現するとともに、解決方法についてグループで話し合いながら考えている。

整理 7分	9 場の片付けをする。	○安全に留意し、素早く片付けさせる。
	10 学習のまとめと振り返りをする。	○本時の学習を振り返り、児童の努力を賞賛することで、次時への意欲付けを図る。
	11 整理運動、あいさつをする。	○使った筋肉をほぐすようにゆっくりと行わせる。

(4) 場の設定

